

## 平成26年度 血小板委員会活動報告

2015. 11. 26 評議員会11.28 総会

[血小板委員会委員] (○委員長)

- 中舘尚也、北澤淳一、酒井道生、松原康策 (任期2015/12/31 まで)
- 太田 茂、笹原洋二、高橋幸博、前田尚子 (任期2017/12/31 まで)
- 石黒 精、國島伸治、小林尚明 (任期2019/12/31 まで)
- 菊田 敦(担当理事)

中舘尚也(前委員長)、北澤淳一、酒井道生、松原康策の4委員が任期満了(2015/12/31)で退任予定です。

[会議開催]

第1回血小板委員会 2015年 4月18日第118回日本小児科学会総会(大阪)

第2回血小板委員会 2015年11月26日第57回日本小児血液・がん学会総会(甲府)

[H27年度活動報告]

平成27年度血小板委員会の活動目標

### A. 疾患登録事業を活用した小児ITP疫学観察研究

現在、それぞれの疫学研究担当者が取組み、疫学研究の核として、派生する様々な個別課題として、ワクチン接種後ITPや先天性疾患との鑑別などについて、個別の発表をおこない、論文化を目指している。

ITP 疫学観察研究(第一次調査研究: 2010-2015 年)

#### a. 学会報告および論文化

1. 小児慢性ITP診療の実態
2. 本邦のリツキサン投与小児ITP症例の長期予後
3. 先行ワクチン接種・感染を有するITP 症例の臨床像の解析
4. 1 歳未満のITP 児の臨床的解析結果
5. 小児の特発性血小板減少性紫斑病 (ITP)に関する疫学調査研究

#### b. 論文発表(2012 – 2015)

これまで、委員から計6編の報告があった。

1. ITPに関する最近の展開一病態研究、用語の国際標準化、新規治療薬。  
日本小児血液・がん学会雑誌 49 : 373-381, 2012
2. 小型・正常大血小板を有する先天性血小板減少症の診断と分子病態における最近の知見。  
日本小児血液・がん学会雑誌 50 : 186-191, 2013
3. ACTN1 Mutations Cause Congenital Macrothrombocytopenia  
Am J Hum Genet 92, 431–438, 2013
4. Long-term follow-up of children with refractory immune thrombocytopenia treated with rituximab. Int J Hematol. 99:429-36, 2014.
5. TUBB1 mutation disrupting microtubule assembly impairs proplatelet formation and results in congenital macrothrombocytopenia. Eur J Haematol. 92(4):276-82, 2014

6. 小児期自己免疫血小板減少性紫斑病、免疫症候群(第2版) 319-323、日本臨床社、東京

B. 先天性血小板減少症の調査・コンサルテーション体制の構築

先天性血小板減少症の調査・コンサルテーションが、名古屋医療センターと東北大学小児科がコンサルテーションおよび解析を担当する研究体制が構築され、診断アルゴリズムの学会HP掲載を契機に相談・検査依頼が増加し、先天性血小板減少症・異常症の調査と研究を継続中である。

C. 「小児血小板疾患ML (Mailing List)」の活用推進

ITP、血小板異常症に関する相談、討論の場としての活用を継続する。  
(資料として学会HP上のポスターを添付します。)

1) MLアドレス: [Ped\\_Plat\\_ML@umin.ac.jp](mailto:Ped_Plat_ML@umin.ac.jp) (2012年4月正式運用開始)

ML登録メンバー: 99名

MLメンバー登録方法: ML管理者にメールで依頼 ([Ped.Plat.ML@gmail.com](mailto:Ped.Plat.ML@gmail.com))

2) 過去ML掲載記事の閲覧 <https://center4.umin.ac.jp/ml/archive/PedPlatML/>

D. 保護者・患者向け「特発性血小板減少性紫斑病」パンフレットの改訂(第3版)

太田 茂 委員を中心に小児血液・がん学会血小板委員会版の保護者・患者向け「特発性血小板減少性紫斑病」パンフレットを改訂作業中です。

E. 「ITP診療ガイド(案)」作成の取組み

ITP診療ガイドラインの改訂と情報提供

ITP診療を取巻く医療情勢が国内外で大きく変化しており、ITP診療ガイドラインの改訂に相当するものとして、「用語の国際標準化」も含む、学会会員が臨床の場で利用できるような「小児ITP診療の参照ガイド(案)」の作成を前向きに検討中である。

F. 小児ITP例に対するトロンボポイエチン受容体作動薬の使用に関して委員会からの意見

G. 患者家族に対する疾患の啓蒙などの診療支援

疾患の啓蒙などの診療支援の一環として、ITP患者会(なんくるないさー)と連携した取り組みを行っている。

H. その他

中舘尚也、北澤淳一、酒井道生、松原康策が任期満了(2015/12/31)で退任されました。

(文責: 委員長中舘尚也)